

図書館展示●5月●2003

1791 最後の年の最後のオペラ 魔笛



「ぼくがいちばん嬉しかったのは、〈無言の喝采〉でした。
このオペラがどんなに人気上がり続けるかわかろうと
言うもの。」

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
1756-1791

期間●5月12日～6月14日

場所●図書館ブラウジングルーム

1791

最後の年の最後のオペラ

〈魔笛〉

Wolfgang Amadeus Mozart

1756-1791



この最後の作品群は、ウィーン時代の全盛期の諸作品とくらべて、はっきりした新しい流れにたっている。…主流を外れ、演奏機会と収入の減少に悩んだモーツァルトは、背に腹はかえられず、というよりむしろ腹をくくり、頼まれ仕事を幅広くとるように決心したものと思われる。だがそれが、モーツァルトの世界を、新しい方向に広げることになった。

磯山雅 『モーツァルト＝二つの顔』より

Contents

最後の年 1791 を知るための図書
最後の年 1791 の作品 自筆の楽譜(ファクシミリ版)
最後の年 1791 の作品 貴重楽譜
〈魔笛〉が誕生した 1791 の作品年表

モーツァルト 最後の年 1791 を知るための図書

- 『魔笛 秘教オペラ』J・シャイエ 高橋英郎・藤井康生訳 白水社 1976 請求記号 C25-958
『モーツァルトの生涯 3』海老澤敏 白水社 1984 請求記号 C54-362(展示図書は1991年刊)
『モーツァルト=二つの顔』磯山雅 講談社 2000 請求記号 C64-553
『モーツァルト最後の年 1791』H・C・ロビンズ・ランドン 海老澤敏訳 中央公論社 2001
請求記号 C65-316
『モーツァルト書簡全集 ウィーン時代後期』海老澤敏・高橋英郎編訳 白水社 2001
請求記号 C65-638

モーツァルト 最後の年 1791 の作品 自筆の楽譜(ファクシミリ版)

- (ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調) K.595 Barenreiter 1989 請求記号 A9-520
(弦楽五重奏 変ホ長調) K.614 British Library 1987 請求記号 H27-815
(アヴェ・ヴェルム・コルプス) K.618 Akademische Druck - u. Verlagsanstalt 2000
請求記号 A11-499
(魔笛) K.620 VED Deutscher Verlag für Musik 1979 請求記号 H20-281
(レクイエム) K.626 Akademische Druck - u. Verlagsanstalt 1990 請求記号 H31-731

モーツァルト 最後の年 1791 の作品 貴重楽譜 ・閲覧はマイクロフィルムです。

《春への憧れ》K.596、《春の初めに》K.597、《子供の遊び》K.598
ウィーン アルベルティ 1791 原版譜 請求記号 S12-774(M8490)春篇 S12-775(M8490)冬篇
1791年作曲。同年出版の《子供と子供の楽しみのための歌曲集》と題された曲集の<春篇>
に収められた。楽譜がト音記号ではなく、ソプラノ記号で記されていることに注目。一般に、作
曲家の自筆譜を基にする初版では作曲家が記した通りにソプラノ、アルト、テノール記号等が
使われたが、第2版や同時代の後続版になるとト音記号に変えられた。
<冬篇>のタイトルページは<春篇>と同じデザインである。出版社アルベルティは《魔笛》の初
版台本の絵を描いた人物で、音楽出版社ではなかった。普通、楽譜には出版年を記載しな
いが、ここでは書籍出版の伝統に従った MDCCXCI (1791)という出版年が見られる。

《皇帝ティートの慈悲》K.621
ボン ジムロック 1820年代 ピアノ譜 請求記号 S11-203(M4429)
1800年にボンの同社から出版されたもっとも初期のピアノ譜の一つを再版したもの。楽譜の内
容もタイトルページのデザインも変わっていないが、第一版に比べると価格表示が元の8フラ
ンから16フランと2倍に跳ね上がっている。ナポレオン戦争によるインフレが収まった1820年
代に再版されたと思われる。歌詞はイタリア語とドイツ語。

《魔笛》K.620
ボン ジムロック 1812年以降 ピアノ譜の後続版 請求記号 S10-222b(M3-543)
初演の評判は必ずしも高くはなかったが、初演から1年経った1792年11月には200回の上
演を記録している。楽譜も同様で、ピアノ・ヴォーカルスコアは1791年から1793年まで各部分
が別々にウィーンのコジェルフの《音楽雑誌》から出版されたが、ほぼ同時に当時ウィーンにお

ける最大の出版社アルタリアからも出されて、何度も増刷された。ただし、アルタリアの楽譜は全曲ではない。この後も各地の出版社から次々とピアノ譜が出された。この楽譜は魔笛の出版史からみるとかなり後になる。歌詞はドイツ語とイタリア語。

《魔笛》K.620 リブレット

ハノーヴァー ボドゥヴィッツ 18世紀中ごろか 請求記号 S11-420(M6-524)

カットされた場面や入れ替わった場面等があって興味深い。

《レクイエム》K.626

ライプツィヒ ブライトコッフ & ヘルテル 1818年 ピアノ譜 請求記号 S10-959(M4391)

タイトルページの前ページに彫られたエッチングは1800年に同社から出されたスコア初版と同じものである。なお、楽譜はこのエッチングの部分を除いて、タイトルページともにリトグラフで製作されている。

ベートーヴェン：

《モーツァルトの《魔笛》から 恋を知る殿方には の主題による7つの変奏曲》 Wo046

ウィーン モッコ 1810年ごろ 請求記号 S12-245(M2-279)

《魔笛》を愛したベートーヴェンはピアノとチェロによる変奏曲を2曲残している。

他の一曲は 娘っ子か女房か の主題による12つの変奏曲 作品66である。

この楽譜は1802年にモッコ社から出版された原版譜を1810年ごろ同社が表紙を新しく刷り直し、新しい価格をつけて再版したもの。

『中等唱歌集』に収められた《魔笛》

東京音楽学校 明治22年 請求記号 S60-452(M5-448)

魔笛からの2曲が日本語の歌詞をつけられて掲載。3人の童子の重唱「まもなく朝をつげ」は御稜威の光 に、パバゲーノが銀鈴を振った時にモノスタートスと奴隷たちが踊ったり歌ったりする時の音楽は 保昌 と題された。「保昌」とは平安中期の藤原保昌のことで武勇に優れた廷臣として有名。この歌詞は今昔物語巻25第7話「盗賊の袴垂が武威にうたれた話」を基にしている。京の大路を笛を吹きながら一人行く保昌を大盗賊袴垂が襲おうとするが、その隙のない態度に恐怖を覚え、逆に保昌から綿の衣をもらおうという話である。当時の富国強兵政策をほうふつとさせる書き換えであるが、まったく原曲の歌詞と無関係というわけでもない。

二つの曲の歌詞を以下に記しておく

御稜威の光：

ああ明治の御世や、ああひかりの世や、いかにかくこそ、かがやきぬらめ。

みくさのたから、世々につたはりきて、あめつちひろく、みいつのひかりを、はなちますらん。

保昌：

尾花かれふす冬の野辺、ラララララララララララ、

保昌、笛をふきすまし、ラララララララララララ、

月かげすごく、よるももなか、つるぎもこしにかまえたれどうちかちがたきふえの音のみに、

胆をうばはれつつ、つけゆく賊もめぐみのきぬに、ふたたびあせをながしけるぞ、

尾花かれふす冬の野辺、ラララララララララララ、

保昌、笛をふきすまし、ラララララララララララ

モーツァルト 《魔笛》が誕生した 1791 の作品年表

社会状況 6. ルイ 16 世パリ脱出失敗 8. ピルニッツ宣言(ヨーロッパの君主はフランス王家を擁護) 9. フランス新憲法制定、

立法議会成立

1.5	(ピアノ協奏曲 変ロ長調) K.595 作曲。
1.14	リートの3連作(春への憧れ)(春の初めに)(子供の遊び) K.596-598 作曲 「子供と子供の楽しみのための歌曲集」に収められている。アルベルティより出版。
1.23-2.28	宮廷舞踏用舞曲 K.599-602, 604, 605 作曲 宮廷作曲家としての仕事。
3.3	(自動オルガンのためのアレグロとアダージョ 八長調) K.608 作曲 「ミュラーの芸術ギャラリー」の自動オルガンのための曲を依頼される。
3.4	(ピアノ協奏曲 変ロ長調) K.595 をクラリネット奏者ヨーゼフ・ベアの演奏会で演奏。ピアニストとしての最後の演奏会。
3.6	(コントルダンス ト長調) K.610、(ドイツ舞曲 八長調) K.611 作曲。
3.8	(このうらわしい御手と瞳のために) K.612 シカネーダー一座の歌手ゲルルとコントラバス奏者ピッシュベルガーのために作曲。
3.	(シャックの「愚かな庭師」のリートによる「女ほど素敵なものはない」の主題による8つの変奏曲 ヘ長調) K.613 シカネーダー一座のテノール歌手兼作曲家シャックの曲。「愚かな庭師」の原作はシカネーダーで 1789.9.26 にウィーンで上演された。
3.	この頃《魔笛》作曲をシカネーダーから依頼される。
4.12	(弦楽五重奏曲 変ホ長調) K.614 作曲。依頼はハンガリー人の音楽愛好家ヨハン・ペーター・トスト。
4.	《魔笛》の作曲に集中的に取り組む。
5.4	(自動オルガンのためのアンダンテ) K.616 作曲 「ミュラーの芸術ギャラリー」からの依頼。
5.9	ウィーン・シュテファン教会の副楽長(無給)に任命される。
5.13	(グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド) K.617 依頼はグラス・ハーモニカの名手マリアンネ・キルヒゲスナー。
6.8	バーデンに行く。(妊娠中のコンスタンツェは長男カールとバーデンで療養中) バーデンとウィーンを頻繁に往来。
6.10	(グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド) K.617 初演 ブルク劇場。
6.11	ウィーンに戻る。《魔笛》第2幕第11場「僧侶の2重唱」まで完成。
6.17	(アヴェ・ヴェルム・コルプス) K.618 作曲 バーデンで療養中の妻コンスタンツェの世話をしてくれた教師アントーン・シュルトへ感謝をこめた作品。
7.2	バーデンにいたジュスマイヤーに《魔笛》の楽譜(第1幕導入からフィナーレ)を送り返すように手紙を書く。
7.	《魔笛》第1幕の総譜づくりに入る。
7.	シカネーダーが用意した劇場近くのあずまやで《魔笛》に集中。
7.9~11	バーデンに滞在。

7.12	ウィーンに戻る。見知らぬ男が訪問。(レクイエム)の作曲を依頼される。依頼主はヴァルゼック=シュトゥパハ伯爵。
7.16	皇帝レーオポルト 2 世のボヘミア王戴冠記念式典のために(皇帝ティートの慈悲)の作曲を依頼される。
7.26	四男フランツ・クサーヴァー誕生。
7	(ドイツ語小カンタータ「無限なる宇宙の創造者を崇敬する汝らが」) K.619 作曲。フリーメーソンの会員ハンブルグの商人ティーゲンハーゲンから依頼される。
8.10	(舞曲) K.599-602,604、605 のピアノ譜がアルタリアから出版される。
8.19	(グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド) K.617 再公演 ケルトナートーア劇場。
8.24	妻コンスタンツェと弟子ジュスマイヤーとともにプラハへ行く。28 日に到着。
9.2.	プラハで(ドン・ジョヴァンニ)の指揮。
9.5	(皇帝ティートの慈悲) K.621 作曲。
9.6	(皇帝ティートの慈悲)初演 プラハ 国立劇場
9.10	プラハのフリーメイスン分団を訪問。(フリーメイスンの喜び)が演奏される。
9.15	ウィーンに戻る。
9.28	《魔笛》 K.620 「序曲」「僧侶たちの行進」を作曲。全曲完成。
9.29	《魔笛》総練習。
9.30	《魔笛》アウフ・デア・ヴィーデン劇場で初演。指揮モーツァルト。
10.	(クラリネット協奏曲 イ長調) K.622 作曲。クラリネットの名手アントーン・シュタードラーのために作曲。
11.15	(フリーメイスン小カンタータ「われらが喜びを高らかに告げよ」) K.623 作曲。フリーメーソンの <新授冠の希望>分団の新会堂の献堂式のために作曲。
11.18	(フリーメイスン小カンタータ「われらが喜びを高らかに告げよ」) K.623 新会堂の献堂式で初演、指揮はモーツァルト。
11.20	病床に臥す。
12.4	容体悪化。
12.5	午前 0 時 55 分死去。



図書館展示5月 2003

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
1756-1791



魔笛)

参考資料：『モーツァルト=二つの顔』磯山雅 講談社、 『モーツァルトの生涯』海老澤敏 白水社、 『モーツァルト全集』小学館、 『モーツァルト事典』東京書籍

国立音楽大学附属図書館 2003.5.28